

平成 26 年 5 月 31 日（土）

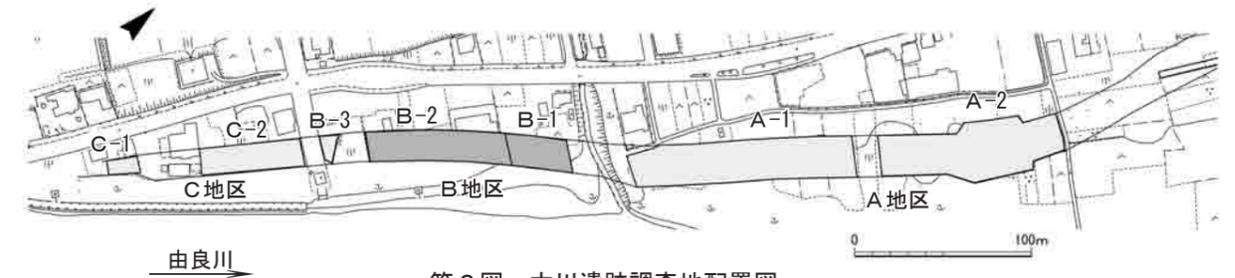
おおかわいせき

大川遺跡（第 5 次調査）現地説明会資料

調査場所 舞鶴市字大川地先

調査期間 平成26年4月10日～9月末（予定）

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>



第 2 図 大川遺跡調査地配置図

はじめに

大川遺跡は、縄文時代から近世までの集落遺跡です。今回、由良川下流部緊急水防災対策事業に関わる堤防工事に伴い発掘調査を実施しています。

調査地は河口から約 8.5 km 遡った由良川左岸の自然堤防上にあり、大川神社の東側に位置します。上流には志高遺跡があり、弥生時代から奈良時代の集落跡のほか、弥生時代のはりいしぼ ほうけいしゅうこうぼ 貼石墓や方形周溝墓がみついています。

当センターでは一昨年度から大川遺跡の調査を行っており、昨年度の調査では平安時代後期から鎌倉時代にかけての集落跡、室町時代の杭跡や土坑などがみつかりました。

今回の調査結果

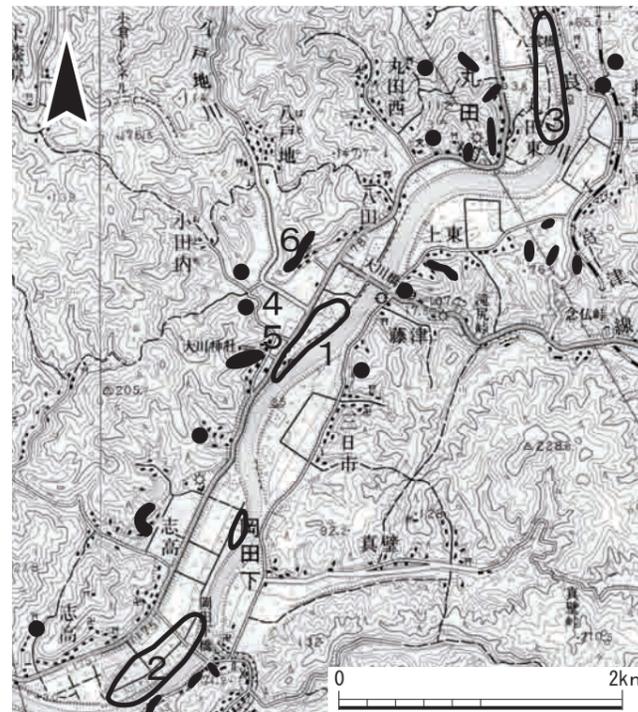
調査対象地にA地区・B地区・C地区の3地区を設定し、その中を小地区にわけて調査を行っています。

今回、B-1・2地区において、弥生時代中期から飛鳥時代にかけての遺構が多数みつかりましたので、その成果を報告します。

弥生時代

海拔 2.3m 付近から、中期の竪穴建物 1 基（竪穴建物 8）と後期の竪穴建物 6 基（竪穴建物 2～7）を検出しました。

後期の竪穴建物は、近接して存在することや重複関係をもつことから、同時に存在したものではなく、何度かの建て替えが行われた



第 1 図 調査地位置図（国土地理院 1/50,000「舞鶴・大江山」）

1. 大川遺跡 2. 志高遺跡 3. 八雲遺跡 4. 宮ノ鼻古墳
5. 徹光山古墳群 6. 八田古墳群 ● 古墳・古墳群

と考えられます。竪穴建物 4 は竪穴建物 5・6 を壊して造られていることから、3 基の建物の中で最も新しい建物であることが分かります。

竪穴建物の平面形には円形のものすみまると隅丸方形のもの（竪穴建物 2）が認められます。検出した形や規模から、直径や一辺が 8～9 m の規模をもつものとみられます。竪穴建物の深さは 10～20cm です。

竪穴建物 4 は最も大きく、復原径 9.2m を測ります。床面中央に土坑があり、その周辺で

2 か所のろあと炉跡を検出しました。また、屋根を支える柱を据えた主柱穴 4 か所を検出し、その配置から 6 か所の主柱穴が設けられていたと復原されます。

これらの竪穴建物からは、つぼ かめ たかつき壺や甕・高杯などの土器と砥石といしが出土しました。

調査地の南端では、弥生時代中期の溝 2 条（溝 1・2）を検出しました。

古墳時代

5 基の竪穴建物（竪穴建物 9・12～15）と溝 1 条（溝 4）を検出しました。竪穴建物の平面形はいずれも方形を呈しています。これらの竪穴建物からは、後期の遺物が出土しています。全容の判明した竪穴建物 13 は 5.1m × 5.2m の規模を測り、西壁面の中央付近に竈かまどが設けられており、床面中央にも炉があります。主柱穴は 4 基確認しました。竈は竪穴建物 9 でも検出されています。このほか、溝 4 で後期の須恵器すえきが出土しました。

竪穴建物 10・11・16 は出土遺物がなく、詳細な時期はわかりません。しかし、竪穴建物 10・11 は前期の土器と勾玉が出土した土坑 1 によって壊されていることから、より古い時期のものと考えられます。竪穴建物 11 では、床面に炭や焼土塊が多数検出されています。

飛鳥時代

弥生時代から古墳時代の竪穴建物や土坑の上面で、多数の柱穴を検出しました。これらの柱穴は方形で、一辺約 0.5m、深さ約 0.3m です。柱穴の配置から、掘立柱建物 3 棟を復

原しています。

掘立柱建物 1 は東西棟の建物で、2 間（4.1 m）以上 × 2 間（3.6m）、掘立柱建物 2 も東西棟の建物で 3 間（5.7m）× 2 間（3.0m）の規模となります。掘立柱建物 3 は掘立柱建物 1・2 とは向きが異なる建物で、規模は 3 間（約 5.7m）× 2 間（約 3.7m）となります。掘立柱建物の時期は、掘立柱建物 3 の柱穴から出土した土器から飛鳥時代と判断されます。また、「L」字状に屈曲する溝 3 からも同時期の土器が出土しています。

まとめ

大川遺跡は由良川自然堤防上に営まれた集落遺跡で、今回の大川遺跡 B 地区では、狭い範囲に密集して多くの竪穴建物がみつかりました。集落の中心部に近い地点であると考えられます。

これまでの大川遺跡の調査をみると、調査地全体に平安時代後期から室町時代にかけての遺構が分布しています。それに対して、弥生時代から飛鳥時代の遺構は B 地区だけに広がっています。時代が新しくなるとともに、集落の範囲が拡大したことが窺えます。

由良川下流域では、志高遺跡や桑飼上遺跡で弥生時代の集落が調査され、自然堤防上に立地する中心的な集落であることがわかっています。大川遺跡も志高遺跡や桑飼上遺跡と同じく、由良川下流域における弥生時代の中心的な集落の一つであることがわかりました。



写真1 竖穴建物7 全景
(北東から)



写真2 竖穴建物13 竈跡
(東から)



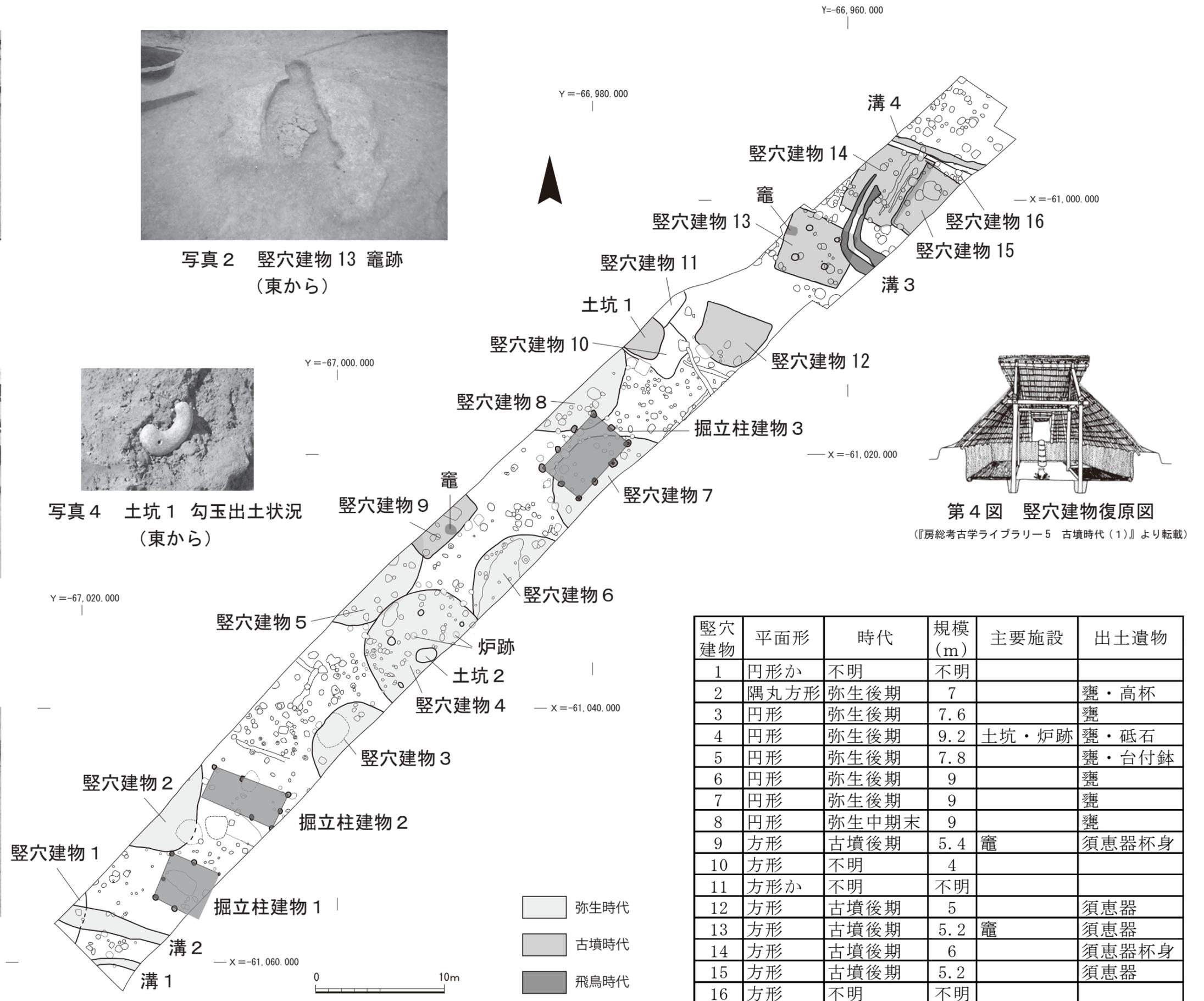
写真3 土坑1 遺物出土状況
(北東から)



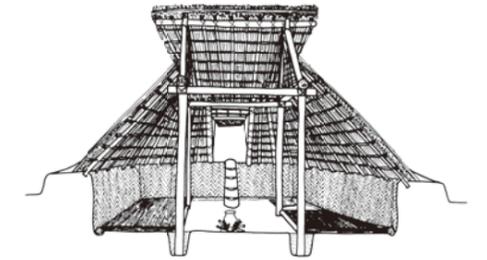
写真4 土坑1 勾玉出土状況
(東から)



写真5 溝2 遺物出土状況
(西から)



第3図 B地区平面図



第4図 竖穴建物復原図
(『房総考古学ライブラリー5 古墳時代(1)』より転載)

竖穴建物	平面形	時代	規模(m)	主要施設	出土遺物
1	円形か	不明	不明		
2	隅丸方形	弥生後期	7		甕・高杯
3	円形	弥生後期	7.6		甕
4	円形	弥生後期	9.2	土坑・炉跡	甕・砥石
5	円形	弥生後期	7.8		甕・台付鉢
6	円形	弥生後期	9		甕
7	円形	弥生後期	9		甕
8	円形	弥生中期末	9		甕
9	方形	古墳後期	5.4	竈	須恵器杯身
10	方形	不明	4		
11	方形か	不明	不明		
12	方形	古墳後期	5		須恵器
13	方形	古墳後期	5.2	竈	須恵器
14	方形	古墳後期	6		須恵器杯身
15	方形	古墳後期	5.2		須恵器
16	方形	不明	不明		

表 竖穴建物一覧